

座長：和田 秀一（福岡大学医学部心臓血管外科）

「足腰の神さま」 — 京都・護王神社の由緒と信仰 —

護王神社 禰宜
本郷 貴弘

平安の御代より悠久の歴史を湛える古都、京都。その中心に佇む京都御所の西側に、「足腰の神さま」護王神社が鎮座しています。祭神として祀られるのは、平安京建都を提唱しその建設に尽力した和気清麻呂公。備前国から下級の武官として宮廷に出仕していた清麻呂公は、大きな政治事件によって歴史の表舞台に登場します。それが「宇佐神託事件」（道鏡事件）です。清麻呂公はこの事件がきっかけで配流の身となり、道鏡の刺客に足の筋を切られて立ち歩くこともできない状態でしたが、配流の地へ向かう途次、山中から現れた三百頭もの猪に護られ、不思議と足が治ったと伝えられています。その後清麻呂公は数々の功績を残してこの世を去り、その御遺徳は後世まで語り継がれ、いつしか神として祀られるようになりました。以来、その御由緒から足腰の御利益を求めて多くの崇敬が寄せられています。

信仰は心のよりどころ。目に見えない大きな力で生かされ見守られていると信じることで、強く和やかな心で日々の生活や治療に向き合っていくことができます。

護王神社は、足腰の健康を祈る皆様にも、それを手助けする皆様にもぜひご参拝いただきたい神社です。